

◇豊島区産業振興指針 令和6年度取組状況一覧

参考3

指針1： 中小企業の経営力強化と起業の促進 SDGsとの関連性：

5

7

8

9

10

17

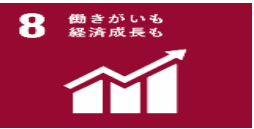
取組の方向性	方針		進捗状況【2024年4月～2025年3月実績】	評価	R7年度目玉事業	今後の方向性
①経営基盤の強化	相談機能の充実と情報発信の強化	事業者の多様化する経営課題に適切に対応するため、としまビジネスサポートセンター連携機関の強みを活かした専門相談員や社会保険労務士、税理士、ビジネスコーディネーターによるワンストップ相談に加え、各種専門機関の紹介や専門家相談料の補助を行い、最も身近な相談役として相談機能の充実を図ります。 また、令和5年にリニューアルしたとしまビジサポホームページやSNS等を活用したプル型・プッシュ型周知を実施し、としまビジサポの支援制度の効果的な周知や区内事業者の新事業・新商品PRの支援。DX推進に資する専門家派遣制度や相談窓口の紹介など、情報発信を強化していきます。	■特定創業支援等事業における連携機関追加とセミナーの新規実施 連携機関に西武信用金庫を追加し、受講することで特定創業支援の要件となるセミナーを協働開催した(1月20日、1月27日の2日間) ■特定創業支援等証明書の発行件数: 144件 ■ビジサポバブリシティの掲載件数: 80件	計画通りに進捗している	《事業概要》 相談体制の強化を見据えた、としまビジネスサポートセンターの運用見直し 《スケジュール》 6月 関係各機関と利用者にはヒアリングを実施 7月 令和8年度の骨子案を作成 12月～ 具体的なプログラムの調整	《現状の課題》 ◇特定創業支援事業のプログラム受講のために、土業への相談予約が取りづらい状況になっている。 《今後の方向性》 ◇特定創業支援に関するプログラムの受講をセミナー形式で行い、個別の企業相談の需要に応えられる体制を作る。
	資金調達の円滑化	起業希望者や事業者が必要な資金を低利で受けられるよう、区が融資のあつせんや利子の一部補助を行います。それに加えて、新時代に対応した区独自補助金制度(DXの推進、見本市・商談の出展料補助、販路拡大支援、専門家への相談補助、人材育成支援等)を創設し、利用促進を図ります。 また、Web予約や希望者への訪問相談・オンライン相談の導入とともに、庁内で検討を進めている電子契約・請求の動きと合わせて申請手続きのデジタル化を図り、事業者の利便性向上に努めます。 さらに、事業者のニーズにあった資金調達の一助となるよう、としまビジサポホームページ等で国・東京都・関係団体等の各種補助金の情報提供等を行います。	■豊島区中小商工業融資資金: 貸付件数1,130件、貸付金額8,288,460千円 ■開業支援補助金: 支出件数65件、支出総額10,863千円 ■経営安定支援補助金: 支出件数227件、支出総額24,602千円 ■コラボチャレンジ事業補助金: 支出件数6件、支出総額998千円	更なる強化が必要	《事業概要》 ①起業資金 ②展示会補助金【新規】 《スケジュール》 補助金について 5月～1月 申請受付 ～2月末 支出完了	《現状の課題》 ◇区内中小企業への周知不足 《今後の方向性》 ◇区内の業種団体への周知を新たに実施
②多角的なビジネス支援	販路拡大に向けたサポート	事業者にとって最大の経営課題である販路拡大を支援するため、SNSの活用など、時流に合った販路拡大・マーケティングに関するセミナーや相談会の開催、連携機関との協働による個別相談を実施します。さらに、ファーマーズマーケットや協力企業でのテストマーケティングの場の提供、それに合わせた出店サポート相談、としまMONOづくりメッセ等による異業種交流によるコラボレーション・マッチング支援を継続していきます。 また、新たな取組として、区内優良事業者の商品やサービスをふるさと納税の返礼品としてPRすることで、販路拡大を支援します。	■第18回としまMONOづくりメッセの開催 開催日時: 令和7年2月27日～3月1日 来場者数: 13,454名 出展規模: 95社・団体/110小間 ■ビジサポセミナーの実施: 受講者数92名(計4回) ■東京としまの宝物セミナー: 40事業者参加(3回) ■ふるさと納税返礼品事業者数: 74者	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①としまMONOづくりメッセの区内企業出展促進 ②創業セミナーの新設【新規】 ③ふるさと納税を活用した産業振興・区政PR 《スケジュール》 ①5月～8月企画、9月～11月出展・協賛企業、1月～2月来場者募集、2月事業実施 ②第1回9月、第2回11月、第3回2月 ③通年 ふるさと納税返礼品事業者の拡大	《現状の課題》 ◇メッセ来場者数の減少 ◇セミナーテーマのさらなる充実 ◇返礼品を活用した寄附の一層の拡大 《今後の方向性》 ◇BtoCを強化し、区内産業を区民へPRする ◇中小企業のニーズを踏まえ、団体とセミナーテーマを決定 ◇新規返礼品事業者の開拓、魅力的な返礼品の発掘
	SDGs達成に向けた取組支援	区内事業者の約3割がSDGsを理解していない実態があることから、事例紹介やセミナー等の情報提供を行い、事業者がSDGsに取り組む意義やメリットを普及啓発し、SDGsへの理解向上を図ります。ホームページ等でSDGsの取組の好事例・モデル事業者のPRを行い、公民が一体となってSDGs達成に向けた取組を推進します。 また、世界的なGXへの動きに対応し、「2050年カーボンニュートラル」が実現できるよう、東京都や庁内関係部署と連携し、補助金・税制優遇制度や診断ツールの提供などの各種支援策について、メールマガジンやとしまビジサポホームページ等を活用して事業者への情報発信を強化します。	■豊島区のSDGsは、各課において推進している。2025-2029基本計画においても、施策ごとにSDGsのゴールを設定し、各施策の中でSDGsを推進する	更なる強化が必要	《事業概要》 メールマガジンやビジサポホームページによる情報発信の強化 《スケジュール》 担当課と協議、調整中	《現状の課題》 ◇事業者への周知が充分になされていない 《今後の方向性》 ◇区内事業者への普及啓発強化に関する具体策を検討、推進する。
③あらゆる人材へのスタートアップ支援	多様な人材への起業支援	起業希望者が抱える課題は、性別や年齢、企業準備レベルによって多岐にわたり対応策が異なることから、個別企業相談、セミナー、チャレンジ出店等の準備段階に応じたきめ細やかなサポートを継続します。 今後は、女性のための起業支援を継続するとともに、庁内関係部署と連携した広報や、イベント開催を通じた子育て世代やアクティブシニアへの働きかけ、学生を対象としたビジネスコンテストや意見交換会の開催による学生起業家の支援を行い、新たな潜在起業家を発掘します。また、外国人起業家は言葉の壁による企業に関する手続きの困難さ、文化や風習の違いによるトラブル等の特有の課題があります、庁内の多文化共生推進担当部署と連携し、外国人起業家の課題やニーズ分析を進め、必要な支援を検討していきます。	■女性のための起業塾の開催(8月～11月): 全8回エントリー35名、動画視聴170回 ・参加者による交流会の開催(全2回)参加者: 33名 ■3区合同女性起業家交流会の開催(7/8)参加者: 33名 ■としまフェスの開催(3/26) 来場者数: 300名 ■令和6年7月: 外国人相談窓口を開設。通訳や翻訳タブレットにより、最大22言語対応可能。外国人起業家からの相談に対し、相談窓口へのご案内や通訳等により支援可能。	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①女性のための起業塾 ②学生向けアントレプレナーシップ教育や、起業家を対象としたピッチイベントの検討【新規】 《スケジュール》 ①6月～: 申請受付、8月～11月: 講義開講、3月: としまフェス(チャレンジ出店)開催 ②4月～5月: 視察、6月～8月: 制度設計・予算要望	《現状の課題》 ◇若者やシニア層に向けた起業支援策が少ない 《今後の方向性》 ◇女性以外の創業者への支援の検討 ◇潜在起業家のニーズに的確に応える事業を展開し、区内発のスタートアップ創出を促進すること。
	起業支援施設や人的ネットワークを活用した新ビジネスの創出	安価に利用できるシェアデスク方式のレンタルオフィスであるとしまスタートアップオフィスを活用し、起業時の大きな課題であるハード面への支援を継続します。 また、近隣区と合同の起業家交流会や、民間の起業支援事業者と連携した起業家交流会の開催、区内産業団体が行うネットワーク支援への協力など、ソフト面での支援の充実を図り地域全体で起業家を支えることで、豊島区に愛着を持つ地域密着型の起業家を増やします。	■スタートアップオフィス利用者(令和6年度): 14名 ■起業家交流会(令和6年度)参加者数: 48名	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①起業家交流会 ②区内事業者とスタートアップとの交流会に関する事業設計及び試行実施【新規】 《スケジュール》 ①9月: 受付開始、12月: 開催予定 ②6月～8月: ヒアリング・視察・制度設計・予算要望、10月以降: 事業の試行実施	《現状の課題》 ◇スタートアップのニーズを的確に把握し、国や都の施策との差別化を意識した交流会を設計すること。 《今後の方向性》 ◇区内事業者の特性を活かした交流会を設計し、スタートアップと区内事業者双方の活性化を支援する。

指針2： 持続可能な商店街に向けた活性化支援 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2024年4月～2025年3月実績】	評価	R7年度目玉事業	今後の方向性
①商店街のにぎわい向上支援	商店街のにぎわいを もたらす事業への支援	単一商店会では経費や人員の制約により実施可能な企画に限られてしまう現状があります。商店会同士の交流を促進し、複数商店会での共催や若手や女性などの新たな人材を活用した企画を支援することで、より多彩なイベントを増やし、商店街のにぎわい創出を目指します。区内の大小様々な商店街が、イベントを通じてそれぞれの特色特徴を内外にアピールし、そのにぎわいが面的に拡がり、商店街やまち全体の活気につながるよう事業を推進していきます。また、商店街の空き家店舗に事業者を誘致するなど、商店街の活性化と担い手の確保を支援します。	■空き店舗活性化支援事業：応募者9件、採択者3件 ■共催でのイベント実施：5件 ■若手・女性を構成員とするイベントの実施：4件 ■地域商品券の発行事業を共催にて実施：3件 ■商人まつりを6地区（池袋東口、巢鴨、池袋本町、大塚、椎名町、池袋西口）で実施し、区内商店会が出展し魅力をアピールした。	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①区内空き店舗を活用し開業する事業者へ補助金と相談受付の2本柱のサポートを実施 ②プレミアム付地域商品券発行事業補助 《スケジュール》 ①5～7月募集・採択者決定、8月交付決定、3月開業 ②6月以降随時交付申請受付・補助認定、事業実施、実施報告を受け交付額決定・補助金支出	《現状の課題》 ◇物件探しに苦勞する事業者が多い。 ◇実施するための【予算・人員・企画力等】が必要 《今後の方向性》 ◇物件探しや開業準備について経験に基づく声を届けられるよう前年度採択者との交流会を設定する。 ◇共催実施を勧めることで、事業の拡大を目指す。
	来街者が利用しやすい商店街づくりへの支援	集客力や来街者の利便性の向上を図るため、商店会が作成するホームページやマップなどの販売促進事業を支援します。また、回復してきているインバウンドに対応するため、多言語化やキャッシュレス化に取り組む事業への支援強化し、商店街が観光の目的地となり、更に来街者が増えてより一層にぎわう商店街を目指します。	■販売促進事業 2事業実施 ・商店街街路灯フラッグ作成 ・商店街ホームページ作成	計画通りに進捗している	《事業概要》 販売促進事業を実施する商店会への補助 《スケジュール》 4月交付申請受付・補助認定、事業実施、実施報告を受け交付額決定・補助金支出	《現状の課題》 ◇実施するための【予算・人員・企画力等】が必要 《今後の方向性》 ◇補助金制度や他の実績等に関する情報提供を強化し、実施商店会数を増やす。
②地域連携によるコミュニティ強化	他団体との連携強化	商店街だけでなくまち全体の活力を創出するため、大学生が商店会へ活性化策を提案するなど商店会と大学や町会などとの連携を促進し、地域の文化資源や観光資源を活かしたにぎわい創出を図るとともに、商店会を核とした地域コミュニティを強化します。	■高校生が地元商店会とのコラボ商品を提案した。 ■大学生が地元商店とコラボ製品を企画し、商人まつりやMONOづくりメッセ、ファーマーズマーケットに出展した。 ■大学生や専門学校生が、商店街イベントや未来を創る商店街支援事業に参加・従事した。	計画以上に進捗した	《事業概要》 各学校・団体と商店会との連携事業の提案や相談があった際の対応、事業内容のPRを行う。 《スケジュール》 通年実施	《現状の課題》 ◇現状の補助金の要件上、実施主体が商店街のみの事業を補助対象としており、他団体との連携を検討しづらい。 《今後の方向性》 ◇補助金制度の見直しや他の実績等に関する情報提供を強化し、他団体との連携を支援する。
③安全・安心で持続可能な商店街づくり	安全・安心な商店街づくりへの支援	来街者が安全・安心に買い物ができるよう、老朽化した街路灯の整備を推進するとともに、LED街路灯の設置など環境に配慮した事業を強化します。 また、商店街の路面店の空き店舗は、街の景観を損ねるとともに防犯面の問題も指摘されています。地域の大学が空き店舗を活用してアンテナショップを企画・運営した取組を参考に、商店街内の個店に近隣大学の学びの場を誘致するなど、さらなる空き店舗対策を推進します。	■LED街路灯建替え事業実施（1事業） ■LED街路灯設置事業実施（1事業）	計画通りに進捗している	《事業概要》 商店街街路灯等撤去費用補助事業【新規】 《スケジュール》 6月補助内容案内・東京都の補助認定後交付申請受付・補助認定、事業実施、実施報告を受け交付額決定・補助金支出	《現状の課題》 ◇実施するための【予算・人員・企画力等】が必要 《今後の方向性》 ◇補助金制度や他の実績等に関する情報提供を強化し、実施商店会数を増やす。
	商店街の維持・発展	商店街の減少を防ぐだけでなく商店街をより発展させていくため、会員加入促進を支援するとともに、各会員店舗の経営力強化を図ります。合わせて商店会同士が連携して行う事業や、近隣商店会の合併など、区域や会員数の拡大による組織力向上を目指す取組も支援します。また、新たな商店街づくりに積極的に取り組む商店会に対する計画策定から事業実施までの一貫した伴奏支援や、先進的な取組を行う商店会の事例紹介、国や東京都の支援策の情報提供を広く行い、持続可能な商店街を目指します。	■商店会向け情報配信メールの発信（月1回以上） ■商店会向け加入促進文書の作成 ■共催イベントの実施 ■地域商品券の発行事業を共催にて実施 ■未来を創る商店街支援事業実施 ■商店会の合併	計画以上に進捗した	《事業概要》 プレミアム付地域商品券事業の実施 《スケジュール》 6月以降随時交付申請受付・補助認定、事業実施、実施報告を受け交付額決定・補助金支出	《現状の課題》 ◇予算や人員不足により、事業内容が制限されてしまったり、事業実施が出来ない状況が見受けられる。 《今後の方向性》 ◇共催実施や近隣商店会との協力（合併）を勧めることで、事業の拡大や商店会の組織力強化につなげる。

指針3： これからの産業を支える人材の育成と多様な働き方の推進 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2024年4月～2025年3月実績】	評価	R7年度目玉事業	今後の方向性
①中小企業における人材の確保	中小企業の人材確保支援	現在、事業者における大きな課題の一つが人材不足です。未来に向かって発展するためには、適切な人材確保の仕組みづくりが必要です。人材不足に悩む事業者を支援するため、事業者向けのセミナーや就職イベント、助成案内、相談窓口設置等実施している国や東京都の関係団体等の事業を検索できるデジタルツールを整備します。 また、ハローワーク池袋と就職面接会を開催するとともに、公益財団法人東京しごと財団などの関係団体と連携し、就労を促進するセミナーを実施します。さらに、区内事業者への就職や定着を支援するため、事業者や働き方の魅力アップを図ることをテーマとしたセミナー情報の提供などで事業者を後押しします。 そして、多様な価値観を持つ若い働き手の獲得対策として求められる職住近接やワーク・ライフ・バランスを重視した多様な働き方などの課題をどう実現していくか、転職しキャリアアップすることが一般的になりつつある今、就職先として選ばれるために事業者はどうアピールしていくべきかなどについて研究していきます。 そのほか、業務効率を高めることで人手不足の解消につながるよう、AI等の先端技術を活用するなど、時代に適した経営手法を取り入れたDX推進を目指します。	■就職面接会(7月,10月開催) ハローワーク池袋共催:延べ参加者数49名、延べ参加企業数6社、延べ採用人数6名 ■豊島区ホームページでの情報発信の見直し(ターゲットに応じた連携機関の紹介を追加しリニューアル)	計画通りに進捗している	《事業概要》 就職面接会 《スケジュール》 6月～ 周知開始と受付開始 7月 1回目の面接会 10月 2回目の面接会	《現状の課題》 ◇支援策の情報の効果的な発信ができていない 《今後の方向性》 ◇各支援策の検索ができる事業者向けデジタルツールを整備していく。
	多様な労働力の活用	生産年齢人口が減少傾向にある中、年齢や性別にかかわらず高度な知識や多様な経験を有する即戦力な労働力を獲得していく必要があります。シルバー人材センターに登録している職務経験が豊富で専門知識を有するアクティブシニアの情報を、事業者が活用しやすくなる仕組みづくりをシルバー人材センターと協力して進めていきます。また、高度な知識・技能を持つ外国人や離職した子育て世代など、多様な人材を雇用する際の注意点や相談窓口の情報を事業者が取得できるよう、産業団体と連携しながら情報を発信していきます。	■生涯現役セミナー 東京しごと財団(7月,10月,2月開催):参加者数147名	計画通りに進捗している	《事業概要》 生涯現役セミナー 《スケジュール》 6月～ 周知開始と受付開始 7月 第1回開催 10月 第2回開催 2月 第3回開催	《現状の課題》 ◇事業者への情報提供の不足 《今後の方向性》 ◇各団体と協力しながら、情報提供を効果的に行う方法を検討する。
②人材の育成と事業承継	次世代の育成	関係団体と連携し、就業体験やものづくり体験、工場見学などを行い、次世代を担う子ども達に区内産業に触れる機会を提供することで、地域産業への愛着を醸成します。また、区内大学などの教育機関と事業者がつながり、区内で活躍する人材と触れ合える職場見学会や意見交換会といった新たな取組を進め、若い人材の区内産業への理解向上を図ります。	■工場見学: 【Aコース】7月23日 関越物産・ウエマツ(19組38名が参加) 【Bコース】8月1日 西武造園・スーパーバッグ(18組37名が参加) ■第18回としまMONOづくりメッセの開催 ・会期中に区内小学生の社会科見学を実施(6校360名) ■経営者との意見交換会(9/27 東京商工会議所・大正大学主催)	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①小学生の親子を対象に、豊島区に縁のある企業の工場の見学ツアーを実施。 ②小学生に区内企業の高い技術や製品、ものづくりの情熱を広く発信し、ものづくりに触れる機会を提供。 《スケジュール》 ①4月～6月企画検討、7月参加者募集、事業実施 ②5月～8月企画検討、9月～11月出展・協賛企業募集、1月～2月来場者募集、2月事業実施	《現状の課題》 ◇イベントの定員の都合上、参加できる人数に限りがある 《今後の方向性》 ◇工場見学の区内協力企業の確保 ◇児童へのイベント周知強化
	事業承継の支援	経営者の高齢化による事業者や商店街の事業承継問題に対応するため、優良事例の紹介をはじめ、事業承継・引継ぎ支援センターや日本政策金融公庫などが実施する相談窓口やマッチング支援策に関する情報を、としまビジネスサポの窓口やホームページで周知するなど情報発信を強化します。また、従来実施していた事業者向けの事業承継セミナーに加え、新たに商店街向けの事業承継セミナー・相談会を実施し、豊島区で長年愛された個店の魅力を持続できるようなマッチングを支援します。	■経営者高齢化による事業者や商店街の事業承継問題に対応するため、経営基盤強化や資金調達に役立つビジサポセミナーを3回実施した。 ①経営戦略についてのセミナー 8月開催 40名参加 ②価格転嫁についてのセミナー 10月開催 23名参加 ③資金調達についてのセミナー 12月開催 15名参加	計画通りに進捗している	《事業概要》 物価高騰や人材不足に対応するための、事業者の経営のヒントとなるビジサポセミナーを実施予定 《スケジュール》 8月、10月、12月開催予定	《現状の課題》 ◇特定の事業者の情報を、区へ相談に来庁した方に伝えるということが、行政の立場として難しい。そのため、効果的なマッチングができなくなっている。 《今後の方向性》 ◇ビジサポセミナーで、人材確保をテーマにした講義を行い、事業者に情報提供を行う。
③職場環境の充実	多様な働き方の推進	コロナ禍で多くの事業者に広まった多様な働き方は、働く時間や場所に柔軟性を待たせることで、育児や介護による離職を防ぎ新たな人材確保ができると期待されています。区内事業者の魅力アップする取組として、テレワークやフレックスタイム制などについて、導入に向けた課題解決への相談窓口の案内を行うとともに、事業者が国の健康経営優良法人認定制度を活用し従業員の健康管理を経営的な視点で考え戦略的に取り組んだり、ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度を活かして、誰もが働きやすい環境整備を推進できるよう周知アピールしていきます。	■社会保険労務士会の協定による労務相談:128件 ■チームとしま所属企業への訪問説明:3社 ■東京都労働相談情報センターとの共催事業(9月)研修全2回 参加者83名 ■令和6年度時点認定企業数:59社(第14期:28社 第15期:31社) ※区HPおよびとしまフェスで第15期認定企業紹介 第16期認定企業 新規:6社 更新:26社(認定期間:令和7年4月1日～令和10年3月31日)	計画通りに進捗している	《事業概要》 としまビジネスサポートセンターでの労務相談 《スケジュール》 社労士会との協定により、月2回区内中小企業の労務関係の課題に対しての相談を実施	《現状の課題》 ◇事業者への情報提供の不足 《今後の方向性》 ◇区内の様々な団体と協力することで、効果的な情報発信を目指す。
	安心して働ける労働環境の整備	事業者が発展するためには、適切な人事確保に加え、人材が定着する仕組みづくりが必要です。従業員が長く働き続けられる事業所となるためには、経営者が雇用に伴うリスク管理を適切に行い、積極的に職場の労働環境を整備する必要があります。としまビジサポにおける労働相談をはじめ、東京都労働相談情報センター等の関係団体と連携し、労働環境の改善に向けたセミナー情報や法令改正等の情報提供を行うことで、労働環境の向上に向けた事業者の取組を支援していきます。	■社会保険労務士会との協定による労務相談の実施:128件	計画通りに進捗している	《事業概要》 としまビジネスサポートセンターでの労務相談 《スケジュール》 社労士会との協定により、月2回区内中小企業の労務関係の課題に対しての相談を実施	《現状の課題》 ◇事業者への情報提供の不足 《今後の方向性》 ◇区内の様々な団体と協力することで、効果的な情報発信を目指す。
④伝統工芸技術の承継と発信	伝統工芸技術の承継と発信	長きにわたり受け継がれてきた伝統工芸の技術は、工芸士の高齢化により承継が危ぶまれています。伝統工芸の技術習得には時間を要し、すぐには工業とにくいのが現状です。体験教室や伝統工芸展等のイベントを通じて次世代のものづくりへの関心を喚起するとともに、若い世代を対象とした職人体験や後継者育成など、時流に合わせて段階を踏んだ技術承継の支援を行っています。 また、現在も実施している伝統工芸保存会ホームページや映像、リーフレットを活用したPRに加え、ふるさと納税の返礼品として工芸品や工芸体験をPRすることで、豊島区外の新たな購買層を開拓し、さらなる商品開発や販路拡大を支援します。	■常設展示:庁舎3階ショーウィンドウ、5階区長室前 ■伝統工芸教室の開催:5業種(手描友禅、貴金属装身具、べっ甲、金工、つまみ細工)令和6年4月～令和7年3月:月2回程度実施 ■夏休み親子伝統工芸教室の開催:4日間実施、5種類(貴金属装身具・東京三味線・金工・つまみ細工・江戸提灯)、参加者数:147組・282名 ■第18回としまMONOづくりメッセへの出店及び体験教室(社会科見学・大人対象)の開催 ■ふるさと納税返礼品への参加:9名	計画通りに進捗している	《事業概要》 中学生向け以上を対象とした伝統工芸教室を開催し、より幅広い層に伝統工芸の周知を図る。 《スケジュール》 8月に中学生対象夏休み伝統工芸教室開催、2～3月にとしまMONOづくりメッセにて中学生以上対象の体験教室を実施。	《現状の課題》 ◇伝統工芸作品・技術の認知度が低い 《今後の方向性》 ◇ふるさと納税スキームを活用した伝統工芸品の販路拡大 ◇次世代にむけた地域伝統工芸のPR ◇キャッシュレス決済等の導入(イベント時)

指針4： 観光振興による地域社会・経済の好循環化 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2024年4月～2025年3月実績】	評価	R7年度目玉事業	今後の方向性
①まちの魅力の活用推進	地域の魅力発見・発信	新型コロナウイルス感染症の拡大期には、人流は大きく変化し豊島区内の観光産業も打撃を受けました。豊島区には、欲しいもの食べたいものがすぐに手に入る池袋、昭和レトロを感じるマンガのまち南長崎、歴史と文化が息づく雑司が谷・目白、都電とバラの街並みに「和」が溶け込んだ大塚、商店街の魅力あふれる巢鴨、花とみどり豊かな駒込など、各地域が異なる魅力を持っています。遠方からの来街者に限らず区民が自分のまちを楽しむ視点も重要です、池袋をはじめとして街歩きで楽しめる「ウォーカブルなまち」を目指し、消費行動へもつなげていきます。 また、区の文化・観光にまつわる様々な情報を、WEBサイト「IKE-CIRCLE(イケ・サークル)」に集約し、SNSを活用した若年層への情報発信の強化やデータ分析に基づいた効果的・効率的な観光施策を展開していきます。さらに、区内で増加しつつある外国人留学生の情報ネットワークを活用した観光魅力の発信について、検討を進めます。	■IKE・CIRCLE、SNS(Instagram)を媒体としたイベント・観光情報発信を通年実施した。 ■池袋リビング・ループの開催(隔月マーケット)3回 (スペシャルマーケット)1回	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①ホームページのリニューアルに伴い、IKE-CIRCLEの代わりに、「豊島区の魅力」という区の観光スポットの魅力を伝えるページを作成する。 ②グリーン大通りを起点とした「ネイバーフッドコミュニティ」を目指す 《スケジュール》 ①6月2日よりホームページがリニューアルとなる。 ②4・5・6月マーケット、11月1～3日スペシャルマーケットの開催。	《現状の課題》 ◇観光のモデルコースを伝える「お散歩コース」の掲載については、掲載場所の許可を得たり、その他調整が残っているため6月のリニューアルには間に合わないと広報課から報告あり。 ◇グリーン大通り・南池袋公園と四つの公園の連携 《今後の方向性》 ◇多少の内容変更の可能性はあるが、魅力的な情報を提供できるよう今後も広報課と調整を図る。 ◇公園間連携による、イベント時の回遊の促進。
	としまの地域ブランドのさらなる磨き上げ	豊島区では、芸術・音楽などをはじめとするクリエイティブ産業が活発です。なかでもマンガ・アニメは、令和2年(2020年)にオープンしたトキワ荘マンガミュージアムをはじめ、アニメグッズの大型ショップが進出し、マンガ・アニメを活用したイベントが多く開催されるなど、マンガ・アニメ・コスプレの聖地として注目を集めています。今後も、東京都のアニメ拠点「アニメ東京ステーション」や関係団体・事業者との連携を強化します。また、文化都市としての地域ブランドを高めるための観光事業を推進し、来街者のさらなる増加と、それに伴う観光消費額の拡大による地域経済の活性化を目指します。	■トキワ荘マンガミュージアム特別企画展の開催:3回 来館者46,842名 ■池袋オータムカルチャーフェスティバル(池袋ハロウィンコスプレフェス、アニメイトガールズフェスティバル、オータムカルチャーマルシェ、としまマンガ・アニメフェスタ)の開催 来場者332,476人 ■マンガ・アニメ街なかコラボ(商店会フラッグ・ブリリアホール装飾) 7件	計画通りに進捗している	《事業概要》 トキワ荘マンガミュージアムをはじめ、マンガ・アニメを活用したイベントや関係団体・事業者と連携を強化のよる地域経済の活性化を目指す。 《スケジュール》 ・トキワ荘マンガミュージアム特別企画展(3回)、5周年記念月間イベント(7月) ・池袋オータムカルチャーフェスティバル(10,11月) ・マンガ・アニメ街なかコラボ(通年)	《現状の課題》 ◇トキワ荘マンガミュージアムでの魅力的な企画展の開催 ◇マンガ・アニメ・コスプレのイベント拡大に伴う地域理解の促進 《今後の方向性》 ◇トキワ荘関係者との調整、イベント実行委員会での情報共有と地域理解への対応を進める。
②誰もが観光を楽しめる環境の整備	ユニバーサルツーリズムの推進	来街者の利便性を向上させ、安全・安心に観光することができる環境整備には、バリアフリーの視点が重要です。豊島区では、「池袋駅地区バリアフリー基本構想」に基づき、案内サインやトイレ、エレベーターなどのハード面に加え、心のバリアフリーなどのソフト面も含めた、一体的で質の高いバリアフリーの充実を関係事業者と連携し推進しています。これに加えて、外国人などそれぞれが持つ多様な文化・習慣への対応や、コミュニケーションの障壁をなくすことで、誰もが心地よく過ごせる環境づくりを目指します。 また、キャッシュレス化やデジタルメニューの導入など、デジタル技術を活用することで、誰もが快適に過ごせるおもてなし環境の整備を促進します。	■豊島区内観光案内標識等維持・管理業務(94期) ■住民部会(現場視察・意見交換会)の開催:1回 参加者32名 ■池袋地区バリアフリー推進協議会の開催:1回 参加者45名 ※特定事業計画の進捗状況等について協議会委員と情報共有を図った。	計画通りに進捗している	《事業概要》 関係事業者と連携して、特定事業計画の進捗管理を実施する 《スケジュール》 6～7月各施設管理者へ進捗状況の更新依頼、12月までに取りまとめ、3月までに進捗状況を協議会委員へ周知・ホームページにUP。	《現状の課題》 ◇多様な文化・習慣等への対応力の強化 ◇特定事業計画等の進捗管理 《今後の方向性》 ◇豊島区へ訪れた誰もが快適に過ごせるよう、ハード面・ソフト面の検討を行う。 ◇基本構想改定、令和8年度新拡提案
	インバウンドに向けた取組	アフターコロナの状況で海外からの来街者が戻りつつある今、多くの外国人旅行者が豊島区の魅力を体験し、快適な観光を楽しめるような仕組みが必要です。 商品の購入だけでなく、日本文化体験やその時にその場でしか経験できない特別な体験プログラム、体験型ツアーの充実を進め、観光の高付加価値化を図ります。そして、まちをよく知る各地域の案内人の活用や、外国語通訳ガイドなどの要請を一般社団法人豊島区観光協会と連携して行い、おもてなしの実践の場を提供していきます。また、快適な滞在とするために、観光案内標識における多言語表示の充実、インバウンド冊子の発行の取組も進めていきます。	■豊島区内観光案内標識等維持・管理業務(94期) ■観光協会と連携したインバウンドのマップの発行 ■池袋東口観光案内所の運営	計画通りに進捗している	《事業概要》 インバウンドを含めた来街者の受入環境整備 《スケジュール》 ニーズに対応した対応を都度実施していく。 ・地域連携を活用したイベントの開催 ・インスタグラム、グーグルフォームを活用した観光情報発信	《現状の課題》 ◇安全安心な街づくりに向けた取り組みの継続 《今後の方向性》 ◇安全安心な街づくりに向けた取り組みの継続
③産業と観光の融合による新たな価値の創造	商店街振興と融合した観光施策	豊島区内には、神社仏閣や文化遺産、伝統工芸、食など、各地域に特色豊かな観光資源があり、それらを目的に内外から来街者が集まります。しかし、目的地を観光後、すぐに移動してしまうケースも多く、隣接する商店街を周遊し長く滞在してもらう仕組みづくりが必要です。 商店街の個々の店舗の魅力を高めることに加え、商店街内の老舗店やそこでしか変えない銘品、商人まつりなどの商店街イベントについて、WEBサイト「IKE-CIRCLE(イケ・サークル)」でPRし、商店街を観光名所のひとつとして人を呼び込む取組を進めていきます。	■豊島区内の観光イベント等の後援・共催。イベント支援により豊島区各地域への誘客を促し、商店街等地域経済に貢献 ■商人まつりを6地区(池袋東口、巢鴨、池袋本町、大塚、椎名町、池袋西口)で実施し、区内商店会が出店し魅力をアピール ■上記商人まつりについて、広報としまやWEBサイト「IKE-CIRCLE(イケ・サークル)」等でPR	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①豊島区認定おみやげ制度(観光協会と連携) ②6地区(池袋東口、巢鴨、池袋本町、大塚、椎名町、池袋西口)で商人まつり実施。当事業をPRしていく。 《スケジュール》 ①7月～9月応募を行い10月末選考、年内公表 ②4、6、10、2、3月に商人まつり実施予定	《現状の課題》 ◇魅力的なおみやげの発掘 ◇事業開始から15年が経ち定着する一方で、新規企画や出店が減少している。 《今後の方向性》 ◇観光協会HP、区HP、広報としま等で公表する。 ◇事業継続を支援しつつ、実施時期や内容、安心安全面への配慮を商店街連合会と検討。
	区内銘品のブランディング	豊島区内でしか買うことのできない銘品や伝統工芸品、伝統芸能の体験型コンテンツを、ファーマーズマーケットやふるさと納税の返礼品など、区が有する販路を活用し広く来街者へもPRしていきます。 また、商店会と交流都市の連携によるコラボ商品の開発や、近隣の商店会が連携したまちおこしブランドの立ち上げなど、地域ブランドの振興に関する新たな取組が進みつつあります。今後は、それらの自発的な取組を支援し、豊島区のファンを増やし、消費額の拡大へつなげていきます。	■ふるさと納税返礼品の登録数:366品 ■区内商店がファーマーズマーケットやMONOづくりメッセに出店 ■6地区(池袋東口、巢鴨、池袋本町、大塚、椎名町、池袋西口)で実施した商人まつりに区内商店や交流都市から多数出店し魅力をアピール ■大学生が地元商店とコラボ製品を企画し、商人まつりやMONOづくりメッセ、ファーマーズマーケットに出店	計画以上に進捗した	《事業概要》 ①ふるさと納税を活用した産業振興・区政PR ②各種イベントへの出店 《スケジュール》 ①通年実施 ふるさと納税返礼品の拡充 ②通年実施	《現状の課題》 ◇近隣自治体と比較し、ふるさと納税の寄附件数・寄附額に拡大の余地あり ◇イベント等に商店会と交流都市が集うことはあるが、連携事業の検討・実施には至っていない。 《今後の方向性》 ◇返礼品の追加や露出拡大によるPR力強化 ◇連携事業やコラボ企画等を勧め、産業と観光の発展を目指していく。

指針5： 未来へつながる消費者市民社会の形成 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2024年4月～2025年3月実績】	評価	R7年度目玉事業	今後の方向性
①サステナブル経営の推進	事業者に向けた啓発と情報発信	環境・社会・人に配慮するエシカル消費など、消費者志向の経営に取り組む事業者情報を、消費者および消費者団体等関係団体と共有して、事業の推進をサポートします。また、エシカル消費の推進のため、区内事業者の社員向け研修などを対象とした出張講座を新たに開催します。 さらに、消費者と事業者がお互いを信頼し手を取り合いながら発展していく健全な市場を形成するため、法令を遵守した事業活動と消費者保護に向けた取組が推進されるよう、事業者向けコンプライアンス講習会等の情報を共有します。	■区内事業者へ出張講座を開催し、消費者庁が推進する事業者向けコンプライアンス講習会等の情報を周知した。 ■消費者と共創・協働して社会価値を向上させる経営「消費者志向経営」に取り組む企業を対象とした「消費者志向経営優良事例表彰」の募集を周知した。	計画通りに進捗している	《事業概要》 消費者志向経営を推進する事業者への表彰制度の周知 《スケジュール》 8月～10月 消費者庁が実施する「消費者志向経営優良事例表彰」の募集をビジネスサポート通信を通じて周知する	《現状の課題》 ◇消費者志向経営についての認知度が未だ高くはない。 《今後の方向性》 ◇引き続き中小企業事業者への消費者志向経営の周知を進める。
		区民サービスの充実を図るため、消費生活センターの開設時間を延長しました。相談状況については分析を行い、消費者問題の傾向を中小企業支援関係部署とも情報共有します。 また、高齢者総合相談センターなどの関係団体との連携の強化やSNSを活用し、相談窓口の周知を図ります。	■相談状況や最新の消費者問題の傾向を中小企業支援関係部署を中心とした関係各課へ情報共有を行った。 ■高齢者総合相談センターなど的高齢者の見守り関係団体との連携し、講座を開催した。 ■啓発用のグッズを活用し、消費者ホットライン188の周知を含めた相談窓口の周知を図った。	計画通りに進捗している	《事業概要》 「見守りと支えあいネットワーク事業」への参加 高齢者福祉課が実施している「見守りと支えあいネットワーク事業」へ積極的に参加し消費者被害の未然防止対策と、消費生活相談の周知を図る。 《スケジュール》 6月見守り担当者連絡会 11月高齢者の見守りと支えあいネットワーク定例会	《現状の課題》 ◇「見守りと支えあいネットワーク事業」への参加は令和7年度からの試みのため、慎重かつ適切に進めること重要となる。 《今後の方向性》 ◇高齢者福祉課の「見守りと支えあいネットワーク事業」に積極的に関わり、高齢者の被害防止対策と消費者相談の周知を進める。
		区民ひろばを中心にした高齢者向けや、子どもスキップと連携した若者向けの消費者被害防止啓発を行います。 また、消費生活相談員が小学校、中学校、高校および大学へ出向き「出張講座」を開催し、よりよい社会の形成に参画する消費者になるための消費者教育を実施します。	■区民ひろばを中心にした高齢者向けや、子どもスキップと連携した子ども若者向けの消費者被害防止啓発「出前講座」を年31回行った。 ■消費生活相談による。「出張講座」を大学および専門学校等で年間10回開催し、被害防止の啓発と共に、社会の形成に参画する消費者になるための消費者教育を実施した。	計画通りに進捗している	《事業概要》 小学校での消費者教育の実施【新規】 消費生活相談員が学校へ伺い、小学校6年生を対象として、消費者教育（「出張講座」）を実施する。 《スケジュール》 5月実施予定の小学校と詳細決定 6月講座内容の組み立て、7月講座実施	《現状の課題》 ◇学校からのオーダーに合わせた講座を構築し実施する必要がある 《今後の方向性》 ◇小学校、中学校へ出張する消費者教育「出前講座」を積極的に進める。
		消費者が自ら責任を持った消費行動を行い、公正で持続可能な社会の形成が実現できるように「消費生活口座」等を開催し、「食品ロス」や「エシカル消費」「カーボンニュートラル」など消費者問題に関する啓発事業を実施します。 また消費者教育の充実により、消費者と事業者の格差により発生する消費者問題の未然防止を図ります。	■消費者が自ら責任を持った消費行動を行い、公正で持続可能な社会の形成が実現できるように「食品ロス」や「エシカル消費」などの消費者問題に関する「消費生活講座」を年6回実施した。	計画通りに進捗している	《事業概要》 消費生活講座の充実 夏休みに親子を対象とした食育講座 「親子で作ろう 地球に優しいナンづくりにチャレンジ」を実施する【新規】 《スケジュール》 6月募集開始、7月31日講座開催	《現状の課題》 ◇夏休みを使った親子講座も初の実施のため、慎重に実施することが必要。 《今後の方向性》 ◇今年度は食育講座を含め7回の消費生活講座を実施する。親子講座や夜間講座等、あらゆる世代への消費者教育を進める。